

外部評価による議会活動の精査と向上について ＜議員間討議（1月15日）のグループワーク結果＞

Q 1 PDMシートを活用した外部評価手法について、議会活動に適しているのか？ （これまでの分析と評価）

＜Aグループ＞

PDMシートの考え方自体は取り入れると良いが、PDMシートを完全理解すること体が難しく、外部からより簡素に外部評価してもらう仕組みが必要である。よってPDMシートを議会活動の評価手法とするのは無理があるが評価自体は必要であり、今回のPDMシートについての取組みは評価手法検討も含め十分に意味のあるものであった。

＜Bグループ＞

このシートは全ての議会活動に適用するとは言えないが、進捗管理としては、目的と手段が明確になると整理した。

＜Cグループ＞

PDMシートを活用して外部評価につなげようとする議会の取組みは評価すべき実績と整理した。その結果、課題としては、議会活動をPDMシートで評価するには、JICAのプロジェクトと議会活動は趣旨が一致しないため、現時点では議会活動の外部評価の手法としては馴染まないまとめた。

Q 2 今後の「外部評価」についての考え方や方法は？

＜Aグループ＞

外部評価の考え方については、内部評価のみで終わってしまうと自己満足で終わってしまう懸念があり必要なものである。それぞれの取組み毎の評価は最低限必要である。よって、取組み毎に議会内での内部評価を総括のような形でしっかりと行い、外部(モニターや諮問委員)に確認いただきフィードバックしてもらうことで最終的な評価の精度を高めることが必要である。

＜Bグループ＞

外部評価自体の重要性は議員共通の認識であり、その手法は、議会モニターや議会改革諮問会議委員の意見を伺うことが良いという意見になった。

＜Cグループ＞

議員共通の考えとして、外部評価の必要性はあるとし、今後の具体的な外部評価の手法については、アンケートの活用(住民・議会モニター・諮問委員・議会サポーター等)を具体例としてまとめた。